

- 先生からのメッセージ…………… 2～4
- 会員だより…………… 4～6
- 平成29年度会計報告…………… 6
- 進路状況・基金のご協力とお願い…………… 7
- 地域科学部公開講座案内・役員紹介…………… 8

平成30年度 森の会 総会・懇親会のご案内

日 時 平成30年**11月4日(日)** 12:00～14:30(受付11:30～)

場 所 岐阜キャッスルイン 2F

岐阜市県町2丁目8番地 TEL:058-212-3277
JR岐阜駅(長良口)より北へ徒歩約7分 名鉄岐阜駅(出口2)より徒歩約2分

会 費 3,000円(在學生は1,000円)当日受付にてお支払いください。
※会費は3,000円(在學生は1,000円)ですが、実際の飲食代金はお一人5,000円です。
会費との差額は森の会が負担いたします。

お楽しみ 「**プラタガシ**♪～岐阜の歩き方～」
お話：富樫幸一先生(2017年12月2日のプラタモリにご出演)

同封のはがき、またはメールにて出欠をお知らせください。

ご出席・ご欠席に関わらず、同封のはがき(切手不要)に必要事項をご記入の上、ご返信ください。なお、Eメールにてご連絡いただいても結構です。今回残念ながらご欠席の方も、是非とも皆さまへの近況報告をお寄せください。

～ お子様の同伴もOK! 皆さまのご参加を心よりお待ちしております ～

申込み締切 10月14日(日)



懇親会集合写真(2017.10.29)

お聞きになりたいこと等ありましたら、森の会事務局までお気軽にご連絡ください。

Tel:058-293-3021

(月・水・金 9:00～15:00)

e-mail: mori2001@gifu-u.ac.jp

先生からのメッセージ

地域科学部らしい学風を活かして

とがし こういち
学部長 ● 富樫 幸一 教授



この3月の卒業を祝う会の時、ゼミや友人の紹介のスライド大会の後、学生が代表して「地域科学部はアット・ホーム、学生と先生の距離が近い」と、この学部の気風を誇らしげに語っていた。多くの学生や卒業生もこの言葉に共感してくれるだろう。

1996年10月に学部が発足し、翌97年から1期生を受け入れて、21年が過ぎた。当時は日本初の「地域」を冠した学部の一つであった。同窓会の最初のメンバーの人たちは、このまだ「よくわからない新しい学部」にチャレンジしようという気概で入ってきたことを覚えているかもしれない。学内外から集まってこられた先生方も、どのような方向をめざすのかでさまざまな議論をしていたことが、学部長室に残されていた資料を掃除しながら整理していると垣間見える。

いきなり1年生から社会活動演習が始まり、3年次の地域学実習の2年目からは岐阜市の中心市街地の共同調査に取り組み、同時並行で、ぎふまちづくりセンターのワークショップなどにも関わってきた。今、人口減少や少子高齢化の中で、「消滅可能性都市」「地方創生」が唱えられている。我々はそれに先んじて、郡上市などでの移住・定住者の調査や、地域の魅力を高めながら次の世代の育成に力を注いでいる「まち・ひと・しごと」の好循環を目指した取り組みにも関わってきた。

この会報が出るころにどうなっているか先行き不透明なのだが、学内での経営系の検討や、名大との統合など、大きな動きが周りで起こっている。一方、地域科学部のこれまでの実績と評価、これからのあり方について、過去の資料を整理し、学内での厳しい議論に対応する中で、再びこの学部のメリットを説得することが続いている。

いわゆる「入口（入試）・教育内容・出口（就職）」というが、地域科学部は他にはないユニークな取り組みを行っている。毎年の夏の学内でのオープンキャンパスに加えて、岐阜経済大・岐阜市立女子短期大学との連携による「高校生のための街なかオープンカレッジ」や、全教員による高校訪問をしばしば実施している。出口についても、卒業生アンケートを最初から毎年、続けているし、就職先の企業への、これも全教員による訪問と調査を行っている。普通の大学よりも高校・企業へのリーチが広く、かつ長いのである。若者の地域へのUターンや定住、つまりはひとづくり・まちづくりによる地域の持続性に繋がることが、自治体や高校との話し合いのなかで理解されてきている。実際すでに、地域の現場で職員やNPOで活躍している地域卒のOG・OBがいる。授業でもこうした先輩達を呼んで話してもらうと、現役の後輩の学生への非常に良い刺激になっている。

学生をただの「消費者」として見立てることもあるが、この学部は違う。こんな例え話を示してみた。人気のある創作系のレストランで、長良川おんぱくのワークショップが行われている。オーガニック料理が得意で、シェフ(教員)は参加者(学生)一人ひとりの嗜好(志向)にそって、地元の食材(教材やフィールド)を用意し、教えてもらいながら一緒に調理(学習)していく。その中で、参加者同士や店員さんとのコミュニケーションが生まれ、ひとつのコミュニティ(地域科学部らしい学風)が生まれるのである。柳ヶ瀬のどこのお店か、分かりますか？ コンパやゼミでも使わせてもらっています。





学びをデザインする学部

地域文化講座 ● ^{うちだ まさる}内田 勝 教授

岐阜大学の全学共通教育で2015年度から始まった「学びをデザインする」という科目があります。教育推進・学生支援機構の廣内大輔先生をコーディネーターとするこの科目では、学生自らが自由に研究テーマを選び、全学の教員の中から一人を選んでアドバイザー役を依頼します。教員の側は、学生からの依頼を引き受けた時点でこの科目の担当が決まるわけです。担当教員は決まった時間に授業をするわけではなく、学生と面談したりメールでやり取りしたりしながら、学生の学期末レポートの作成を支援します。

私は2015年度と17年度にこの科目を担当しました。かなり特殊な科目ではありますが、授業を進めていく上でまったく困難は感じませんでした。なぜなら、学生と面談して何を研究したいのかを確認し、読むべき文献と一緒に探し、学生の初期稿に細かくダメ出しをしてやり取りをしながら最終的な原稿を仕上げていくというこの

授業の作業手順は、私が地域科学部の専門セミナーで行っている卒論指導の手順を、ほぼそのまま規模を縮小して行うようなものだからです。

まるで地域科学部の卒論指導のミニチュアのようなこの全学共通教育科目が、学生のアクティブ・ラーニングを支援する科目として企画されたという事実が、地域科学部の教育の最大の特徴を物語っていると言えます。地域科学部では「アクティブ・ラーニング」という言葉が教育業界の流行語になるずっと前から、学生が自らを取り巻く課題や自ら見つけたテーマについて自由に探究する学び方を、教職員が支援する教育を提供してきたのです。地域政策学科と地域文化学科が共同で実施する一つの教育プログラムの中で、幅広い学問分野の中から学生自らが学びたいことを選び、言わば「学びをデザイン」しながら自分の研究テーマを追求できる地域科学部の教育方法の有効性に、ようやく全学が、そして社会全体が、気づき始めたということなのかもしれません。

みなさんに感謝

地域政策講座 ● ^{みたに すずむ}三谷 晋 准教授



岐阜大学地域科学部の一員になって早いもので15年目。今回、卒業生の方々へのメッセージを書くようにとの依頼を受けてから、あらためてこれまでのことを振り返ることになりました。やはり自分のゼミ生を中心に法学系ゼミの学生さんや個別に相談してきた学生さんらのことをつらつら思い出します。ときどき思い出すそういった記憶は、私(達教員)の心を豊かにしてくれる、とても大事な宝です。

法学系の教員として、竹森先生、近藤先生、山本先生や立石先生などと一緒に学生さんと一緒に楽しんできたこの15年は、皆さんのおかげで幸せな教員生活を送ることができたように思います。講義をうまくまとめることができずがっかりして肩を落としてしまうことも多々ありましたが、学ぼうとする学生さんの姿勢をみて、次はもう少しマシな講義をしようなど小さく改心しつつやってきました。教育をしてきたなどおこがましいことはいえず、逆にいろいろとみなさんに支えられ教えられてきた年月だっ

たように思います。学生さんにとっては迷惑でしょうが、毎週のゼミは私が一番心待ちにしていたもので、とても楽しい時間でしたしね。就職や進路、将来、生き方、恋愛などなどいろんなことに悩みながら、しかしそれを乗り越え、急激に成長していくみなさんを見ながら、その記念すべき瞬間に立ち会えることに感謝しています。

最近では卒業生の方々もいい年齢になり、社会人や親としての苦勞などあるようですね。大学の記憶も薄れているかもしれませんが、時々思い出して、ニヤリとしてくれたら大学人としてはうれしい限り。ときどき大学を訪問してくれたらさらにうれしい限り。早くしないと、ひょっとすると学部が無くなってしまいかもかもしれませんから、是非その前に(笑)。

酒と会報と私

地域環境講座 ● じゅうにむら よしき 十二村 佳樹 准教授



書くことがないのでバックナンバーに目を通す。……。新任教員による自己紹介、各教員の専門分野に関する話題、ゼミ生・卒業生との思い出に大別できそうである。しかし、可能な限りひっそりと生きたい小生にとっては自己紹介なんてとんでもないし（だから写真も載せない）、専門分野の話を書いたところで誰にも読まれないだろうし、ゼミ生・卒業生との思い出なんてそもそもない。

同窓会役員会は小生に何を期待して執筆を依頼してきたのか。八つ当たりに近い感情を抱きながらさらにバックナンバーに目を通す。……。いた。小生と同じように執筆に悩む教員が、津田雅夫教授（現名誉教授）である。会報にふさわしい話題がないと嘆いておられる（話題がないと言いつつも素晴らしい文章を書いておられます）。一緒だ（掲載写真が笑顔である点は除く）。教員歴十年に満たない小生とその時点で定年退職を目前としておられた大ベテランの津田先生とが同じ悩みを共有しているのだ。光栄である。極めて乱暴なとらえ方であることぐらい百も承知だが、若

輩者が名誉教授の思考領域にまで今まさに足を踏み入れているとも考えられるではないか。そう考えれば同窓会報の原稿なんて朝飯前である。津田先生、ありがとうございます。気持ちを新たにに取り組むことができそうです。

さて、津田先生の後押しもあり順調にタイピングを続けているわけだが、ふと疑念がよぎる。このままではただ小生が津田先生を懐かしく思い出しました、という報告で終わってしまうのではないかと……。この状況は、おそらく、まずい。しかしうまくまとめようにも残された紙面も時間もそして執筆する気力も（再び）ない。そもそもまとめるような内容でもない。だめだ、落とし所が全くみえない。陥落を覚悟した城主の心境が今ならわかる気がする。妙な話だがとても清々しい。

ウイスキーを片手にこんなものを書きながら、やはり名誉教授は偉大であると再認識した次第である。

会員だより

私は2006年度に地域科学部を卒業、その後研究科を修了しました。学部のゼミ配属から院修了まで、合掌先生には本当に長い間お世話になりました。この場をお借りして、当時は本当にたくさんご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした!!!!

ゼミでは建築環境工学に興味を持ち、仮説の立て方から調査法、論文一字一句の添削から学会発表、そして修論提出までご指導賜りました。

進路は専攻分野と異なる広告会社に就職しましたが、意外にも担当した業務では実験や論文などを扱う事が多くあり、初めは驚きました。ですが特に抵抗なくデータや論文を扱う事ができました。それは様々なジャンルの文献に触れた合掌先生のゼミだったからだだと確信しています。また業務を進める上で統計データを判断材料としたり、心理学の方法論をヒントにするなど、後から思えば合掌ゼミの内容そのものが就職後の基礎でした。そして総合的に学べる

第7期生 いまい 今井 まみ

地域科学部だからこそ、直接的には関連しなくとも、地域や社会に出た時に体現できる知識が学べていたのだと思います。

そしてこの度ご縁を頂き、4月より新しく地域科学部事務職員としてお世話になっています。約10年ぶりとなる先生方、職員の方との再会や、当時と変わらない緑いっぱいのキャンパスを懐かしみながら毎日楽しく勤務しています。

長年お世話になった地域科学部棟で、今度は業務を通じて僅かでも恩返しができるばと思っております。改めて、地域科学部の皆様には心より感謝申し上げます。



合掌先生と

会員だより

第12期生

かつら たかじ たかぎ ようすけ
桂 鷹治 (高木 陽輔)



岐阜大学の卒業式を待たずに上京し、そのまま師匠に入門して7年目。現在、私は東京都練馬区に住んでいますが、ほぼ毎月、岐阜でお仕事をさせて頂いております。年3回、岐阜市文化センター4階和室をお借りして独演会を主催し、また地域のお寺のイベントやシンポジウムのアトラクショ



ンなどなど。自分が学生時代を過ごした街から声をかけて頂くのは嬉しい事ですし、こんな私でもお役に立てるのならば喜んで参上いたします。

岐阜は落語発祥の地であるということで、岐阜市では毎冬学生落語の大会を開催し、まちづくりで積極的に落語を活用しています。しかし市内で

開催される落語会の数はそんなに多くはありません。まちづくりの成果で、落語の存在を知っている人は多いのですが、ライブで落語に触れる機会がほとんどないので、1人でも多く、生で落語を聴く経験をして頂きたい。定期的な独演会は、そういう思いで始め、この9月に丸1周年を迎えます。

落語が生まれて数百年。幾多の困難はありましたが、様々な魅力があるからこそ、今日まで続いているのでしょう。私もその魅力のために入門し、落語で生計を立てるまでに至りましたし、お客様も芸人を応援し、育ててきてくださったことだと思えます。落語の良さを一人でも多くの人にお伝えして、その魅力に気付いてもらいたい。私もその一翼を担うことができるように、根気よく活動をしていきたいと思えます。



かわわき さやか
第18期生 川脇 沙也佳
(森の会新役員)



皆さまこんにちは！今年の3月に地域科学部を卒業した川脇沙也佳です。

在学中は富樫ゼミに所属しており、ゼミのメンバーでいろんなまちをフィールドワークしたり、他の大学の人とも一緒に学ぶ機会があったり、とても充実した大学生活を送ることができました。

大学以外では、柳ヶ瀬商店街のイベントのスタッフや、マップづくりに関わらせていただき、商店街やそこに携わっている人の魅力を感じることができました。また、わかもので岐阜のまちについて考え、話し合うイベントを岐阜が好きな学生の仲間と企画し、企画を実現する難しさや、同じ思いを持った仲間と活動することの楽しさを知りました。そういった活動の中で、地域のことを学んだり、実際に活動するのがとても楽しくなり、岐阜でこの活動が活かせる会社で働きたいと思うようになりました。

今はシーシーエヌ株式会社という岐阜市周辺エリアのケーブルテレビの会社で働いています。まだ研修中の身で

すが、岐阜のいろんな場所へ行き、新しい発見があったり、学生時代お世話になった方に仕事でお世話になる機会があったり、とても楽しい毎日を送っています。地元密着の企業に就職できたので、地域科学部で学んだ知識を活かして、岐阜にも岐阜大学にも何かのかたちで貢献できるようがんばります！



プレゼン大会での様子
柳ヶ瀬での活動についてお話ししました。(筆者は向かって左)

会員だより

第18期生 **たしま かな**
田島 佳奈
(森の会新役員)

みなさん、こんにちは。2017年度卒業生の田島佳奈です。在学中は法学系の憲法ゼミである近藤真先生のゼミに所属していました。春に近藤真先生が退任されたため、最後のゼミ生でもあります。学生時代は、地域科学部生らしく多様な分野の科目を履修していました。法律系、経済系、文化系などなど・・・(理系がないのは苦手だったので笑)。講義以外では柳ヶ瀬商店街でボランティアとして活動したり、メディアコスモスでの市民ラジオへ参加したりと地域の活動に関わっていました。特に柳ヶ瀬商店街での活動では、実際に商店街の方々と関わり、イベントの運営を実践として学べたこと、人との出会いやつながりがたくさん出来たことは学生時代における私の財産の1つです。

卒業論文はメディアコスモスと他の図書館を比較しながら、市民参加について書きました。メディアコスモスだけ

でなく、岡崎市や多治見市、東海学院大学でも聞き取り調査を行いました。そうした地域と関わって論文を書くことができた環境にあったことは多いに私にとって大切なことでした。

卒業後は岐阜県内で公務員として働いております。1年目なので毎日が勉強ですが、地域科学部での様々な分野の科目を学べる機会があること、カリキュラムを自ら選択してきたことが仕事に活かされています。これからも「面白い」と感じたことにはフットワークを軽くして関わっていきたいです。



筆者は向って左



ゼミのメンバーと
(筆者は中央)

平成29年度会計報告

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

(単位：円、小文字は内訳)

●収入の部

項目	決算額
会費 (10,000円×115名)	1,150,000
懇親会費	79,000
受取利息	568
その他	0
当期収入合計	1,229,568
前年度繰越金	1,566,306
収入合計	2,795,874

●支出の部

項目	決算額
事業費	474,303
会報等印刷費	223,614
会報等郵送費	150,689
卒業・修了祝会祝い金	100,000
事務費	451,047
人件費	363,875
事務用品費	52,046
通信費	31,936
その他	3,190
会議費	101,960
諸会費	6,000
役員会雑費	26,880
交通費	69,080
総会費	149,221
総会経費	0
懇親会経費	149,221
予備費	175,739
当期支出合計	1,176,531
当期予備費合計	175,739
支出合計	1,352,270

項目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,795,874	1,352,270	1,443,604

●資産保管状況

項目	現在高
現金	0
普通預金	
十六銀行	1,443,604
ゆうちょ銀行	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合計	9,443,604

進路状況

学部進路

2017年度卒業生進路状況（2018年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員(32)

国土交通省
法務省
防衛省(2)
愛知県警察(2)
愛知県(3)
岐阜県(9)
福井県
岐阜市(2)
名古屋
一宮市
犬山市
大垣市
可児市
関市
川辺町
岐南町
安八町
養老町
弥富市

医療・福祉・教育業(6)

JA岐阜厚生連
医療法人社団
瑞鳳会松岡整形外科
独立行政法人 国立病院機構
東海北陸グループ
社会福祉法人恩賜財団
愛知県同胞援護会
(株)イーオン
(株)西濃自動車学校

運輸・情報通信業(13)

(株)セイノー情報サービス(2)
(株)テクノア
アビームシステムズ(株)
タック(株)
ミクスネットワーク(株)MICS
中部FMコミュニケーション(株)
富士ソフト(株)
シーシーエヌ(株)
岐阜乗合自動車(株)
三重交通(株)
日本通運(株)
名港海運(株)

卸・小売業(7)

(株)スズケン
(株)大光
(株)ナイスワーク
(株)ファミリーカーショップ
(株)久米商店
スーパーサンシ(株)
(株)三交クリエイティブライフ

不動産・物品賃貸業(1)

三井不動産ビルマネジメント(株)

建設・製造業(18)

(株)新和建設
(株)渡辺建設
ミサワホーム(株)
ダイナパック(株)
(株)SPF
(株)オンダ製作所(2)
(株)クリモト
(株)イマオコーポレーション
(株)パロマ
アンデン(株)
オムロン(株)
岐阜愛知電機(株)
(株)小糸製作所
小島プレス工業(株)
(株)ニートレックス
大福製紙(株)
日本耐酸塩工業(株)

複合サービス業(5)

愛知西農業協同組合
岐阜県農業協同組合中央会
西三河農業協同組合
日本郵便(株)
美濃酪農農業協同組合

金融・保険業(14)

(株)十六銀行(2)
(株)大垣共立銀行(3)
あいち中央農業協同組合
蒲郡信用金庫
岐阜県信用保証協会
岐阜商工信用組合
三菱東京UFJ銀行
あいおいニッセイ同和損害保険(株)
香川県農業共済組合連合会
損保ジャパン/日本興亜
第一生命保険(株)

サービス業(12)

(株)シイエム・シイ
河合泰宏税理士事務所
大進精工(株)
(株)名南経営コンサルティング
(株)トーカイ(4)
日本旅行
名阪近鉄旅行(株)
独立行政法人 高齢・障害・求職者
雇用支援機構
マスターピース・グループ(株)

進学(5)

岐阜大学地域科学研究科(3)
一橋大学大学院
名古屋大学法科大学院

卒業生数	119	進学者数	5
就職希望者数	111	進路未定者数	4
就職決定者数	108	その他	2

就職率 97.30%
(就職決定者数÷就職希望者数)

研究科進路

2017年度修了生進路状況（2018年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

建設・製造業(3)

昭和コンクリート工業(株)
一般社団法人
日本血液製剤機構
(株)オシキリ

サービス業(1)

エルシード(株)

運輸・情報通信業(1)

濃飛倉庫運輸(株)

医療・福祉・教育業(2)

(株)羽島企画トータルケア
Mama's
岐阜県社会福祉協議会

卸・小売業(1)

輔栄堂古美術

進学(1)

明治大学商学研究科

修了生数	18
就職希望者数	9
就職決定者数	8
進学者数	1
進路未定者数	1
その他※1	8

就職率 88.89%
(就職決定者数÷就職希望者数)

※1 社会人修了生を含む

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

地域科学部及び地域科学研究科が更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献する責務を果たすために、ご寄附をお願いします。

この基金による支援事業は、1. 学生に対する学術交流協定校への留学支援、2. 教育研究活動に対する支援、3. 産学官連携及び社会貢献活動に対する支援、4. キャンパスの環境整備・充実に対する支援等としております。多くの皆様のご協力により、本学部・研究科の教育研究活動を支援し、もって地域社会の発展に貢献しうる学生を養成するために本基金を活用させて頂きたく存じます。

つきましては、皆様には本趣旨をご理解の上、格別のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

URL:<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/newstoppers/2017/05/19/post-13.html>

岐阜大学 地域科学部長 富樫 幸一

地域科学部の授業Ⅱ

開催日／10月13日(土)、20日(土)、27日(土)
 時間／13:00～16:30(各講義90分)

10月13日(土)

13:00～16:30

ジョン・G・ラッセル 教授 (文化人類学)
 「21世紀に蘇る人種差別」

山口 未花子 助教 (人類学)
 「カナダ先住民の話
 -内陸トリングットとカスカを中心に-」

20日(土)

13:00～16:30

ゲラン・ジル 准教授 (フランス語)
 「フランス語と文化」

フォン・フラクシュタイン・アレクサンドラ
 准教授 (ドイツ文化)
 「森のようちえん」

27日(土)

13:00～16:30

橋本 智裕 准教授 (化学)
 「化学の目で眺めると……」

神谷 宗明 准教授 (物性物理学)
 「ミクロの視点から世界を見てみよう」

会場 / 岐阜大学地域科学部101講義室

対象 / 高校生以上

募集人数 / 100人 (先着順)

受講料 / 無料

申込期限 / 9月28日(金)

申込方法 / 住所、氏名、年齢、電話番号、職業、車での来学の有無を明記の上、
 郵送・持参・FAX・E-mail のいずれかの方法でお申込みください。

※お寄せいただいた個人情報は厳重に保管し、本講座に関する連絡以外の目的では一切使用致しません。

問い合わせ先

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部 総務係
 Tel/ 058-293-3003 Fax/ 058-293-3008
 E-mail/ chiiki@gifu-u.ac.jp

平成30年度 森の会役員

会長 / 浅井 彰子①

副会長 / 浅野 善信① 都築 尚子①

幹事長 / 中山 智隆③

幹事 / 伊藤 雅浩① 小澤和歌子① 眞鍋 陽子① 後藤 祐治③ 笠原 正博⑩

平野 純里① 藤井 敬子① 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭

川脇沙也佳⑯ 田島 佳奈⑯

会計 / 荒瀬 修三③ 伊藤 未有⑯

監査 / 祖父江利佳① 伊藤 健人③

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 2,235名

(平成30年4月1日現在)

森の会の皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

森の会は、2017年度の大学18期卒業、大学院16期修了の新メンバーをお迎えし、正会員は総勢2,235人となりました。大きな森になってきましたね。

さて、昨年10月に開催された総会・懇親会では、学部存続に関する意見交換もなされました。それを受けて、広くご意見を伺いたくみなさまに文書をお送りし、19人の同窓生が回答をお寄せ下さいました。すべてを学長と学部長に提出いたしました。ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。

年に1回の総会・懇親会は森の会の活動の中心行事です。「異業種交流会」のような楽しさの中で旧交を温めつつ、先生方ともお話がはずみます。今年も多くのみなさまのご出席をお待ちしております。

皆さまがこれからもお健やかに、素敵に活躍されることを祈りつつ、秋の総会・懇親会での再会を心待ちにしております。

森の会 会長 浅井 彰子

森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。
 メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。

連絡先

森の会 (岐阜大学地域科学部同窓会)
 〒501-1193
 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
 TEL : 058-293-3021
 FAX : 058-293-3008
 E-mail : mori2001@gifu-u.ac.jp
 事務局業務日(月・水・金 9:00～15:00)



森の会アドレスに
 簡単にアクセス
 できます

